

「再稼働を許さず、廃炉に！」の声を県民の力に！

11・20 「脱原発」 県民集会と平和広告に全力投球を！

県平和委員会は9月はじめの第2回理事会で秋の取り組みを「脱原発」中心に決めました。

その1. 「東海第2原発再稼働許さず、廃炉に」の署名活動。現在各平和の会で取り組み中。

その2. 秋の大量チラシ宣伝行動（昨年は7万枚）。各平和の会の名前が入るチラシが出来ました。県事務局に注文して下さい。

その3. 「平和広告」を成功させる事。今年は「東海原発問題」です。例年は12月8日の掲載でしたが、18日間前倒しの11月20日にしました。賛同用紙は各平和の会に送付してあります。期間が早まったので早急に取り組みを開始して下さい。

その4. 「脱原発」県民集会の取り組み。各平和の会・平和委員会は3名・5名・10名とそれぞれの力量に合わせて参加者を決めて下さい。

私たちの運動が県民の方々に理解と支持を得られるかどうかは、茨城の平和運動に責任を果たす上で大切なことと思います。

2011年平和意見広告の賛同口数の実現目標

各組織の状況と昨年の実績と理事会の討議を踏まえて決めました。乞う実現！

北茨城	30	花だいこん	20	阿見	60	結城	40
美和・緒川	30	はばたき	20	つくば	10	さかい	10
日立	10	内原・友部	60	守谷	30	古河	20
太田	40	笠西	30	つくばみらい	30	五霞	10
大宮	20	鹿行	60	茎崎	20	その他	45
東海	50	潮来市職	10	龍ヶ崎	20	計	1250
ひたちなか	70	池貝	5	美浦	15		
那珂	30	石岡	100	藤代	70		
水戸西	70	百里	10	取手	65		
水戸南	20	土浦	60	下館	60		

森住卓さん 来水！ 福島原発事故語る！

30年も前から百里農民の方々と闘いの絆をもつ森住さん。

旧ソ連のセミパラチンスク核実験場の核汚染の実態やイラク戦争の実相を鋭く告発したフォトジャーナリストで活躍している森住さん。

今回、原発の事故ではいち早く福島飯館村に何日も泊り取材。その内容についての講演を快く引き受けてくれました。

11月20日（日）午後1時受付 1時半開演
県立青少年会館大研修室（水戸市緑町。県立歴史館前）

講師：森住卓さん（フォトジャーナリスト）

演題：「世界の核汚染と福島」

資料代：500円 お誘いあわせご参加ください。

お誘いあって多数ご参加ください。

第3回常任理事会のお知らせ

各平和の会の活動と全県の統一した取り組み、秋たけなわのなか運動も真っ只中です。。秋の取り組みを成功させるために標記の会議を開催します。ご出席をお願いします。

とき：10月29日（土）午後1時半～5時

ところ：国際交流センター研修室

水戸市備前町6-59 Tel 029-221-1800

議題：1. 秋の取り組みを成功させるために

2. 仲間づくり

3. 日本平和大会について 4. その他

平和新聞

2011年10月15日(土曜日)

1969号（毎月5,15,25日発行）

1950年12月16日第三種郵便物許可 発行 **日本平和委員会**
1部140円 月額400円 〒105-0014 東京都港区芝1-4-9 平和会館
（郵送料月額120円）電話03(3451)6377 FAX03(3451)6277

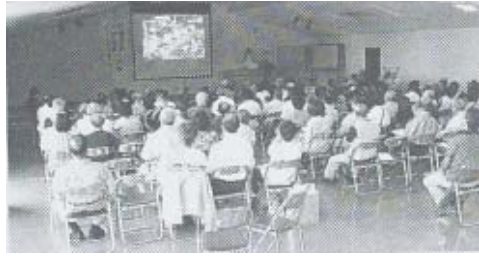
平和かわら版 平和新聞茨城版 No. 607

2011.10/15

発行：茨城県平和委員会 〒310-0912 水戸市見川5-127-281
Tel/Fax 029-251-2806 E-mail ibahei@amber.plala.or.jp



講演会 「原発事故と放射能」



講師に岩井 孝氏を招いて

9月24日 開催

平和新聞の10/5号の6面に学習会の記事が載りました。

参加者の声

- ・とても話しが分かりやすかった。
- ・本当は若い人に聞かせたかった。
- ・常陸大宮で146人の集会は大成功！
- ・私の村から6人が始めて参加。
- ・何人もの知らない人から肩をたたかれた。
- ・30年～40年、人間は住めない。
- ・水のことが気になっている。
- ・人は動くことで、日本を変える。

(6万人集会でも今日でも同じ思いでした。東海事故のときの自分の認識は甘かった。「安全神話」を学校でも教えてきました。考える子供を育てること。6万人集会に行って多くのことを学んで来ました。)



日本ユーラシア協会茨城県支部第7回平和学習会

チェルノブイリとして福島について学ぶ

日時：10月29日(土) 13時30分～16時30分

会場：水戸市国際交流センター 多目的ホール(3階)

(水戸市備前町 TEL029-221-1800)

資料代：300円

☆ 報告：『放射線と健康障がい』

会沢 雄策氏 (会沢クリニック院長)

☆ 講演：『チェルノブイリ25年と

福島原発事故との違い』

安部 愷三氏 (理学博士)

主催：日本ユーラシア協会茨城県支部

：03-3420-3389 佐川、029-224-7447 近藤

『JCO臨界事故を忘れない 原子力事故をくりかえさせない』 2011年9.30茨城集会



10月1日(土) 開催

東海村の石神コミュニティセンター、200名参加！

会場は満席でした。伊東達也氏(原発問題住民運動全国連絡センター筆頭代表委員・福島県連絡会代表委員)が「FUKUSIMAからの警告」の講演を行いました。伊東氏は、自身が被災者でありながら現場で救助・支援活動に奮闘しました。また原発災害を「国策による災難」と喝破し、人生設計を根本から狂わされた上に、希望の見えない悲惨な生活を強いられている人たちの思いと、国策の結果生じた原発の苛酷事故を繰り返させないという意思を、怒りを持って語りました。

「東海原発再稼働を止めよう」

土浦駅署名行動実施(9/27)

延期になっていた署名行動は27日(火)16時から土浦駅西口ペDESTリアンデッキで8人が参加して行なわれました。ハンドマイクによる呼びかけとチラシ配りにあわせて署名の呼びかけを行い、1時間の行動で90筆の署名が集まりました。



高校生の協力が多数ありましたが、スーツ姿の勤め人の協力はなかなか困難だったように感じられます。社会的立場を考えるのか自分たちや家族の暮らしや健康を考えるのかという話し合いや学習をもっと深めていく必要を感じました。しかし、「原発に頼らないエネルギー」の世論が圧倒的多数であることは確かです。「再稼働ありき」のストレステストには期待できないわけで、東海村長やひたちなか市長が政府の圧力に屈しないよう支援していくことが大切です。(土浦平和の会ニュース)

つくばみらい市 / 小川 三也 さん (つくばみらい平和の会)



終戦の時、戦災で都内を転々としていた私は、学徒動員中で17歳でした。偶然青森駅前で玉音放送を聞き、翌日母の疎開先、小樽へ辿りつきました。よくぞ生き残ったと思いました。初めての小樽で小林多喜二を知り生きる力となりました。私は現在83歳になりましたが、多喜二の母セキさん宅を、学友数人と訪問したことも思い出します。

戦後の東京裁判で侵略戦争の実態が明らかになり、満州事変が関東軍の謀略により起こったことなどを知りました。

それに関連して、戦争体験者として怒りを禁じえないのは、「A級戦犯は戦争犯罪人ではない」という今年の終戦記念日の野田発言です。満州事変の謀略の中心人物であった板垣A級戦犯も、戦争犯罪人ではないということになります。松下政経塾出身者の多くに共通の歴史認識ですが、こうした問題には、歴史に疎いことや世代による考え方の違いがあるようです。我が家では、「9条の会」発足(2004年)を機に『憲法9条・学習会』を始め、最近では、『日本の近現代史』を学んでいます。

2年前、「ものが二重にみえる状態」が脳梗塞の前ぶれであることを知らず倒れましたが、後遺症も殆どありません。9月19日の「さようなら原発」(明治公園)には5人で参加、勇気をもらって来ました。

前号「平和かわら版No.606」に掲載の

『放射線による健康障害について』の記述訂正

「年間100ミリシーベルトを浴びるとガンになる確率が0.5%上がる。」と書きましたが、「1回に100ミリシーベルトを浴びるとガンになる生涯リスクが0.5%上がる。」の誤りです。

お詫びして訂正いたします。